

地域再生計画（地方創生港整備推進交付金）中間評価調査

都道府県名	長崎県	事業実施主体	長崎県	地域再生計画名	みなとまち今昔物語―漁業の力再生計画
計画期間	平成26年度～平成30年度	評価責任者	長崎県水産部漁港漁場課長、土木部港湾課長		

	指標		基準値		中間目標値		最終目標値（見込み）			中間評価	中間目標値の実現状況に関する評価	
			基準年度		年度	中間実績	基準年度	実績				
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況（見込み）	指標 1	観光客数の増加	1,700千人	H24	1,760千人	H28	1,707千人	1,800千人	H30	—	△	平戸市の観光客数はH27年に1,781千人に達し、中間目標を達成したが、熊本地震の影響によりH28年は観光客数は減少している。しかし、H28後半は宿泊数などが回復していることから、漁業体験などの体験型観光等により観光振興の強化を図ることで、目標の達成が見込まれる。
	指標 2	年間漁獲高の拡大	437百万円	H24	463百万円	H28	697百万円（H27）	480百万円	H30	—	○	年ごとの漁獲高の変動が大きいですが、近年の漁獲高は増加傾向にあり、H27の実績は中間目標値を大きく上回っている。引き続き整備を進めることで、漁業活動の安全性・利便性が高まり、安定した漁獲高の推移が期待される。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況（見込み）	指標 1											
	指標 2											
③事業の進捗状況（見込み）	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価						
			計画	中間年度（H28）	最終実績見込み							
特別措置を適用して行う事業	港湾施設（大島港）（神ノ浦地区）防波堤（東）（的山区）物揚場（-3.0m）物揚場（-2.0m）道路 防波堤（改良）防波堤（東）（改良）防波堤（西）（改良）		55m 140m 30m 5m×70m 80m 100m 100m	35m 30m 30m 5m×0m 0m 0m 0m	55m 140m 30m 5m×70m 80m 100m 100m	的山区の係留施設については、おおむね計画どおりに整備が進捗しており、漁船の安全性・利便性の向上が見込まれる。一方、神ノ浦地区防波堤や的山区防波堤については、整備進捗が遅れており、関係機関との調整や設計協議を急ぎ、早期の施設完成を目指す。						
	漁港施設（大根坂漁港）-3m岸壁（改良）突堤（-3m）（改良）		480m 80m	480m 80m	480m 80m	計画どおりに整備が進捗している。						
	漁港施設（薄香湾漁港）（薄香地区）-4m岸壁（改良）-3m岸壁（改良）-2m物揚場（改良）（潮ノ浦地区）-3m岸壁（改良）（曲地区）-3m岸壁（改良）		521m	477m	521m	計画どおりに整備が進捗している。						
その他の事業	テーマパーク観光プロモーション事業					平戸を季節ごとにテーマパーク化し、季節ごとの食・芸能などのイベントを「平戸藩の〇〇めぐり」と称しパッケージ化してPRを行い、市及び観光関係団体全体で観光客誘致を図る。平戸藩の春めぐり(3月1日から5月31日)に始まり、平戸藩の夏めぐり(7月1日から8月31日)、平戸藩の秋めぐり(9月1日から11月30日)、平戸藩の冬めぐり(12月1日から2月28日)を実施し、観光客数の増加に取り組んでいる。						
	日本の宝「しま」体感交流事業					平戸市の「しま」独自の自然や歴史遺産、人材、特産物を活用した体験活動を企画・実施し、しまの魅力を再認識するとともに、しまの人々や参加者同士の交流を深め、地域の教育力の向上やしまの活性化を図る。ガイドによる「しま」散策や民泊などを通じ交流を深め、しまの活性化を図る活動を行っている。						
計画外で独自に実施した事業												
④評価方法	関係機関に聞き取り等調査を実施し、評価を行った。											
⑤事後評価の公表方法	長崎県土木部港湾課のホームページに掲載する。											
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、港整備交付金を活用した港湾整備と漁港整備を一体的に実施し、平戸地域の交流拠点の整備と漁業基盤の強化を図ることで、観光客数の増加などの効果を期待している。H27年に中間目標を達成したが、H28年は熊本地震の影響で観光客が減っている。しかし、それ以前の観光客数は順調に増えていたことから、港湾・漁港整備とあわせ、現在実施している漁業体験などの体験型観光をはじめとする観光振興策を強化することで目標を達成できると考えられる。											
⑦今後の方針等	本地域再生計画では、概ね計画どおり事業進捗が図れており、観光客数や漁獲高の目標を達成できる見込みである。このため、引き続き港湾・漁港の整備を進め、さらなる地域の活性化を目指す。											